

2019年度ねんりんピック全国大会の結果報告

第32回全国健康福祉祭和歌山大会

ねんりんピック紀の国わかやま 2019

「あふれる情熱はじける笑顔」

2019年11月9日、ねんりんピック恒例の総合開会式が和歌山市の紀三井寺公園陸上競技場で三笠宮家彬子様のご臨席され、1万人を超える60才以上の選手の入場行進に観客から大きな拍手が送られていました。令和初の本大会は27の運動、文化種目を展開し観客含めて40万人の参加を見込んでいるとのこと、地元への経済効果も相当期待されています。さいたま市からは役員含め150名の派遣団を組み、全員が9日の総合開会式に臨みました。



テニス競技においては11月9～11日まで和歌山市立つつじが丘テニスコートで、全国から68チーム(47都道府県、20政令指定都市)の60才以上ベテラン精鋭が参加し、17ブロックに分かれた交流テニス大会が開催されました。

さいたま市は予選リーグGブロック(さいたま市、島根県、新潟市、京都市)で対戦し、3試合とも2-1の際どいスコアではありましたが、見事なチームワークを持って第1位で関門を突破しました。男子70才は3連勝と危なげない勝ち方で実力発揮の貫録勝ち、女子は1敗したものの攻めの強さは他市を寄せ付けない威力があります。男子60才は初のペアリングも有り硬さが見られましたが、女子の敗戦後の京都市には見事パワー爆発しチーム勝利へと結びつきさいたま市ワンチームの強さを強調した試合でした。

2日目、第1位グループ17チームのトーナメント戦で、幸いにも初戦不戦勝2回戦から、相手はリーグ戦ALL3-0の香川県とのガチンコ勝負。珍しく男子70才が3G先行され3-3まで追いついたもののタイブレークで押し切れず惜敗、1G目の30-0リードがものにできない動揺が尾を引くそれほどの精神戦でした。

半面女子W久美子パワーは試合慣れ、場慣れの域に達していて、実力者ペアの危なげない勝利、これであと少しペアリングが補填できればねんりん全国トップレベル間違いなしです。そして、またまた勝負がかかった男子60才、しか

し京都時のようにはうまくゆかず、互いにサービスキープの 2-3 からブレークされ敗退となりました。

全国制覇の夢は遠く、ということで最後に 1 位トーナメントの優秀賞メダルをもらって帰路につきました。

年々進化するねりんピックに新しい課題を探り、今後のための秘策を練ることが重要と考え、今年痛感したこと対策三箇条として記します。

1. リーグ戦と 1 位トーナメントは全く別格の試合と捉えよ。ハイレベルな 1 位トーナメントを勝ち上がる秘策をもって臨むべし。
2. ダブルスのペアリングの重要性を再認識せよ。選手選考、ペアリングの強化策に努めるべし。
3. ソフトテニス技術がいよいよ硬式の強敵となってきました。ソフトテニスを侮るなかれ、ソフトテニス界との交流を図るべし。

さいたま市も 1 位トーナメント実力はあるもののそこから紙一重、あと一步、ここを克服できれば、これからの協会長期ビジョンに掲げた、「さいたま市ねりんピック全国制覇」が現実のものとなることと思います。

今回、4 日間とも雲一つない快晴の天気、和歌山地元のおもてなし、そして他県の同友との交流に恵まれ大満足の大会でした。挑戦された選手の皆様に心から祝福と感動頂いた御礼を申し上げます。さいたま市の今回の素晴らしいワンチームがさらに発展することをお祈りいたします。ありがとうございました。

さいたま市選手団氏名

種目	選手（所属）
男子 70 才以上	古市美喜夫（TP 宮原）、加藤寛（大宮グリーン TC）
女子 60 才以上	塩川久美子（トラッキー）、飯島久美子（遊友族）
男子 60 才以上	石山裕一（キャロット）、新名清志（フロックス）



さいたま市選手団リーグ戦前



トーナメント終了後

監督：11/13 小林一幸談